

## ネットワークサーバ導入事例

## 三洋化成工業株式会社 様

## 次世代基幹ネットワークの要に「IPCOM S1000」を導入 回線増速、コスト削減に貢献、将来にも柔軟に対応

あらゆる産業製品の可能性を拓く、付加価値の高いパフォーマンス・ケミカルス（機能化学品）を提供し躍進を続ける、三洋化成工業株式会社様（以下、三洋化成工業、敬称略）。同社ではイントラネットによる業務の集中化に伴い、ネットワークの帯域不足が課題となっていた。そこで回線増速とコスト削減を目的に基幹ネットワークの大規模な更新を実施し、次世代基幹ネットワークの要に富士通のネットワークサーバ「IPCOM S1000」を導入。回線増速、運用管理の効率化、TCO削減等を実現するとともに将来への柔軟な対応も可能にした。

### 基幹ネットワーク更新のテーマは 回線増速とコスト削減の両立

1949年に界面活性剤メーカーとして創業以来、あらゆる産業分野に対し、ウレタン関連製品、各種高分子薬剤、特殊化学品等の提供を行っている三洋化成工業。同社の特長は、「はたらきを化学する」という同社キャッチフレーズにあるように、単に原料を提供するのではなく、社会や産業のニーズに合った機能をプラスしたパフォーマンス・ケミカルス（機能化学品）の開発・製造にある。例えば、紙おむつ等に利用される吸水性ポリマーの商業化に世界で初めて成功するなど、先端的な高付加価値製品を次々と生み出し、取扱製品は特注品も入れると5,000種類を数える。同社では「第6次中期経営方針」の一つの目標としていた連結売上高1,000億円を2005年度に達成。そしてさらなる躍進へ、2005年から2006年にかけて同社の企業活動を支える基幹ネットワークの更新が図られた。

同社では2000年のイントラネット導入により、ワークフロー、経費精算、Webメールと、利便性が向上する一方で、ネットワークの帯域不足が問題となり、今回の基幹ネットワークの更新では回線増速とコスト削減が大きなテーマとなった。CPシステム室 主任、大谷氏は、「本社と、24時間稼働でホストコンピュータを使った出荷作業も行う工場は信頼性を重視しイーサネット（FENICSビジネスEthernet）を採用し、営業所には地域イーサネット（Bフレッツ）を活用することでネットワーク構成にメリハリをつけ、従来よりも通信コストを抑えつつ、必要なパフォーマンスを得ることができました」と語る。



三洋化成工業株式会社  
CPシステム室 主任

大谷 郁博 氏

### 機能統合された「IPCOM」に いち早く注目、今回の採用へ

第四世代基幹ネットワークの要となるネットワーク機器の選択は「あまり迷うことはなかった」と大谷氏は振り返る。「2年くらい前、実機を見ながら「IPCOM」について富士通の技術者から説明を受ける機会がありました。従来、帯域制御やファイアーウォール等、ネットワークでいろいろと行うためには何台もの機器を

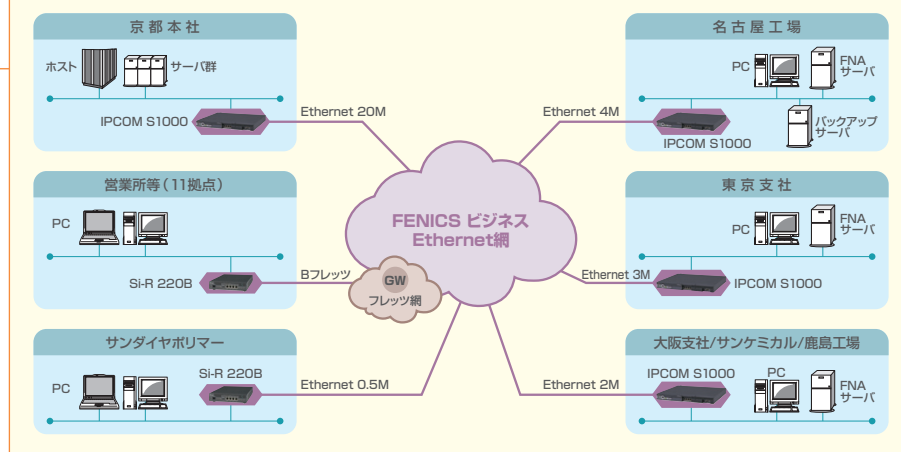
#### ユーザープロフィール



本 社 京都市東山区一橋野本町11-1  
設 立 1949年11月1日  
資本金 130億5,100万円（2006年4月28日現在）  
従業員数 約1,550名（関係会社への出向者含む）  
U R L <http://www.sanyo-chemical.co.jp/>



■ 三洋化成工業様の第四世代基幹ネットワーク構成図



組み合わせていたものが、「IPCOM」ではアプリケーションとして機能を追加していくことで欲しい機能を1台に集約できると。そのときはこれを使いたいというイメージをもちました。また富士通のホストコンピュータを使っていますのでFNA (Fujitsu Network Architecture) プロトコルを基幹業務で使用するというのも選択の理由の一つではありました」(大谷氏)。

機能統合による具体的なメリットについて大谷氏はさらに言及する。「運用管理も楽になり、場所もとられず、万が一の障害発生時の対応もスムーズに行えます。またメンテナンス費はもとより初期投資コストも低く抑えられました」(大谷氏)。

企業活動の生命線、基幹ネットワークの更新ではサポート面も採用の重要なポイントになる。「IP-VPNをベースにした第三代ネットワークから富士通やFSAS (富士通サポート&サービス) とは連携を密にしておりサポートに対する安心感がありました。お蔭様でスケジュール通りに、かつスムーズに移行できました」(大谷氏)。2006年2月から切り替え作業を開始、同年6月に全ての拠点のネットワークを第四世代ネットワークに更新完了。障害対策としてIP-VPN導入時から「FENICS」による網内監視を行っており今回も「FENICS」が常時監視を実施し導入以来、回線が切れることなく安定稼働を続けている。

### 回線スピードを実感 将来の回線増速にも柔軟に対応可能

第四世代ネットワークの稼働により回線スピード面で明らかな効果が出ています。「従来に比べ、帯域が4倍から10倍以上に増えました。ホストコンピュータから各地区サーバへのファイル転送も1Mなら数秒で、またデータウェアハウスで2万件の検索を行う際も従来10分くらいかかっていたものが1分強で行え、現場の業務が楽になったという声や、Webメールが瞬時に画面表示されるようになったという評価もよく耳にします」(大谷氏)。

「IPCOM」の機能にも「満足しています」と大谷氏は笑顔で語る。「当初は1台で本当にきっちりと帯域を確保できるのか、若干心配した面もあるのですが、まったくの杞憂でした。現場でインプットする人間はリズムを大切にしており、コマ1秒の画面の遅れがインプットミスにつながる恐れもあるのですが、現在まで基幹業務においてレスポンスに関する問題は一切でていません」(大谷氏)。さらに運用管理面においても「IPCOM」の機能に大谷氏は大きな

期待を寄せている。「グラフィカルなトラフィック分析機能を活用することで、ネットワークの状況をリアルタイムに、かつ視覚的に把握できます。安心感とともにトラブルの未然防止や今後の回線増強の計画を立てる上でも有効です」(大谷氏)。

今後、同社ではテレビ会議システムや、ファイルサーバの集中化、本社集中型サービスの推進、IP電話等、ネットワークの活用拡大を視野に入れている。「今後もタイミングを見て回線増速を行うこととなりますが、「IPCOM」では最大100Mまで機器を変えずに回線を高速化するだけで柔軟に対応できます。回線を増強するたびにルータをかえていた過去に比べるとかなり初期費用が抑えられます。また今後、帯域制御以外にも、例えばファイアーウォール等の機能が必要になった場合でも、機器を変えずにその機能を追加するだけで対応できる点も大きな魅力です」(大谷氏)。

お問い合わせ先

富士通コンタクトライン

0120-933-200

受付時間 9:00～17:30(土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2

汐留シティセンター